あすなろ

2011.10 No3
作成:あすなろ作成委員会

忙しい2学期が始まりましたね。
やっと運動会も終わって一息ついているころではないでしょうか?
秋は食欲の秋ともいいます。沢山栄養を取って健康に気をつけ、2学期を乗り切っていきましょう!
!(でも太りすぎには注意してね)

第43回全事研大会(鳥取大会)に参加して

四万十市立川登小学校

このところ私は、「学校は教育を行う所である」という当たり前の事実に立脚して事務職員が学校に配置されていることの意義を問い直さなければならない、大きな転換点に立たされているという思いを強く抱いています。そんな折、今回の大会が「教育課程の実施と学校事務」という特集テーマを掲げていたので、それに惹かれて参加しました。

事務職員が教育課程に関わることは、何か目新しい特別なことのように思われがちですし、実際私も、一段高いハードルのような印象を持っていました。しかし、大会を通して「私たちは採用された時からずっと、教育課程に結びつく仕事に携わってきたのだ。」ということに、気づかされました。考えてみれば、学校経営への参画と同様に、ごく自然なことなのです。具体的にどんな形で、あるいはどんな仕事を通して教育課程に関わっているかについては、８月の県大会での高吾支部担当の全体研修（　　先生のお言葉と同様、私も全国大会の分科会かと錯覚しそうでした。
ちなみに、分科会は島根県担当の第４分科会に参加しました。）でも多くの意見や実践例が出されたので、ここでは触れません。

教育課程の編成・実施へ事務職員の関わりを深化させるキーワードとして、大会では「地域」が強調されていました。その意味では、総務大臣（当時）の　　氏の講演が大変印象に残りました。地域主権（地域のことは地域の住民が責任を持って判断すること）を大前提として、鳥取県知事時代に「自治体の仕事として教育が最も重要」と捉えて様々なことに取組んだ体験から、教育の質を高めるには地域と行政が「考える力」を働かせて、学校現場の課題を見抜き解決するため行動しなければならないことが導き出されていました。そして、学校運営には様々な専門的知識や経験、人材が必要で、過度の「教員中心主義」は是正すべきであると言う指摘もありました。

その他、文部科学省の行政説明（講師は高知県出身の方でした）、全体研究会(　　先生と、町教委の指導主事、校長先生によるパネル討議など）、分科会での島根県の実状の説明と演習）など一連の大会内容から多くの収穫があり、また、何十年ぶりかに鳥取の空気に触れることもできて、行って良かったとしみじみ思いました。

総括主任より

今回の総括主任さんのコーナーは、土佐清水市の　　さんにお願いをしました。

台風も去り、本格的な秋が日に日に近づいて来ているようです。
虫の音も秋らしくなってきました。

昔から未来の自分を思い描いていたのですが、30代でハイヒールを履く。40代で宝石を身にまとう。50代で演歌が好きになる。どれも実現しませんでした。

それはさておき・・・・。
私は、松尾芭蕉さんにちょいと足をのばして土佐清水市に来てくれんろうかと言いたいです。そして下の句を詠んでもらいたいです。「百聞は一見にしかず」と同じような意味です。

見しはききしに増りて
あはれに心すむばかりなり
芭蕉

土佐清水市事務部会では「学校事務の共同実施」について話し合っています。
これからも研修を重ね、議論していくことは大事ですが、やってみてわかることもあります。一部の地域で実験的に相互兼務発令をもらい、共同実施をやってみて検証してみてはどうかと思います。あくまで私の個人的な思いです。
次に県下の総括主任が集まるときにどんな話し合いをしているかということをかいつまんで紹介します。
県教委主催の会と自分たちが任意に集まる会の２通りと、幡多郡内の総括主任の集まりがあります。
県教委主催の会で県の方針を聞きました。まず高知県にいずれ訪れるであろう大地震に備えて自校の避難対策を今一度見直してほしい。命を守ることを最優先に述べました。次に共同実施について、メリットデメリットを十分理解して積極的に働きかけてほしい。それと、初任者の育成に力を注いでほしいと言われました。
そして、各地域の実態や取組、役割について意見交換をしています。
任意に集まる会では、各地域の具体的な取り組みや問題点について出し合ったり、３つのグループに分かれて研修しています。３つのグループとは①学校事務のしくみづくり(共同実施組織・支援室等拠点整備の研究）②学校事務の効率化・適正化(県下全域を見据えた事務システム等の研究）③新規採用事務職員等の育成(統一した育成プランの研究）となっています。
幡多地区総括主任会では、地域の取組について情報交換し合ったり、連携して活動していくことを話し合いました。この秋に幡多郡内で採用された２年次と１年次の事務職員が、所属の市町村から出て異種校(小・中)の訪問研修を実施することにしています。
私自身いろんなことが混ざり合って何をしていいやら、何をしているのかわからなくなったりしますが、周りの方に助けてもらって日々過ごしています。他の総括主任さんの意識はすごく高いです。私もいろんな方面の研修をし、人と関わり合いながら実践にいかせるようにがんばっていきたいと思っています。これからもよろしくお願いします。

これはうちの学校の学級通信の一部分です。紹介したいと思います。
あるテレビ番組で、企業の経営者が社風について話していました。
会社のもつ雰囲気のことをその会社の社風（会社の風土）といいますが、学校やクラスにも風土がありそのまま当てはまると思います。
その内容は、社風とはその会社に所属する社員が醸し出す独特の雰囲気のようなもので、朝一夕に出来上がったものではありません。社風は、いろいろな形でその会社で働く人たちの行動や発言に影響を与えるということです。一般的に、業績の良い会社には良い社風があり、業績の良くない会社には好ましくない社風があるといわれていて、例えば「約束が守れない」「電話応対が悪い」「掃除がきちんとできていない」などといったことが日常茶飯事の会社は、知らないうちに取引先に悪い印象を与えて売上の低下につながります。逆に良い社風は社員の行動や発言に良い影響を及ぼして、社内が活性化されて得意先にも良い影響を与えて、売上も上がっていきます。つまり、社風の良し悪しは会社の業績にも影響を及ぼすということを話していました。

<社風診断チェックリスト>

① 挨拶がきちんとできていない

② 名前を呼ばれてもはっきりと返事しない

③ 電話応対が悪い

④ 掃除がきちんとできていない

⑤ 整理整頓ができていない

以下20項目あります

事務室で育てているメダカです。

ちなみに60代の夢はゲームのドラクエ全シリーズをやりきることです。

研究部からの発信

『 ー 鍛える ー 』

昨年から少しずつ「研究部」の情報発信を始めています。

前号では部員歴４年の　　さんが、「研究部」に入った経過や感想などを、率直に伝えてくれました。研究部は、今年もテーマに分かれて研究を続けていますが、一つのテーマについて少人数でじっくりと取り組み、市町村や経験年数を超えた意見交換が重ねられています。タイムリーな情報の中で刺激を受けることも多いです。与えられた課題に対しては負担に思うときもありますが、日々の業務に追われがちな私達にとって、仕事を見つめ直してみることに繋がっているように感じます。また、職場や所属する市町村の中とは違った役を担うこともありますが、それはそれで大事な経験になっています。

この夏の県大会では、多くの若手事務職員の活躍を目にすることができました。真摯に仕事に向き合う姿にふれながら思ったことは、「自分に負荷をかけることの大切さ」でした。人生の中で20代、30代は公私ともども多忙な時期です。しかしながら、この時に蓄えたものが４０代、５０代にいきてくると私は思います。時には自分に負荷をかける、そのことは、きっと「一つ先」の自分に結びついていきます。

そして、また、経験を積んだ事務職員には事務職員の大事な役目があります。その一つが、「次の世代にしっかりとバトンを渡す」ということではないでしょうか。その役目を果たすためには、色々な形の惜しみない支援・指導が必要です。大きな責任を担っているのです。

それぞれが自分に課するものを持ちながら、切磋琢磨しながら育ち合っていきましょう。幡多の研究部はそんな「場」でありたいと思います。

負荷を避けて今に至ってしまった「へなちょこ部長」です。後悔先に立たず、『鍛える』という言葉が身に沁みるこの頃です。

（ちなみに　『　鍛える　』　は　本校の今年度の学校目標です。）

入野小

第43回　高知県公立学校事務研究大会（四万十大会報告）

※アンケートより抜粋

〇講演　（講師：国立教育政策研究所
初等中等教育研究部　総括研究官　　氏）

・学校で働くすべての人が、授業を良くするために配置されていること、学力三要素を身につけるためにもみんなが活躍できる貢献できる学校を作らなければと思いました。そのためにも自分の役割を言語化し、一人では難しいこともチームで実践していくことが大切だと改めて感じました。子どもの笑顔を応援する仕事をしていきたいです。

・「仕事の定義・何のために私たちは配置されているのか・学校のミッションを果たすため」「教頭と同じレベルで学校を良くする視点を持つこと」私のメモしていることの一つです。

・十分実践している事務職がいっぱいいると思いました。また、教育課程の中身をもっともっと勉強することが必要だと思いました。先生の言うようにこれからは外からの理解が重要なので、働きかけが必要でしたが、今回管理職や地教委へ出席してもらうための働きかけをしていなかったので反省しています。

・新教育課程について知っているようで、なにも知らない自分に気づかせられるいいお話でした。

・とても事務職の現状を理解してくれているなと嬉しく講演を聞かせていただくとともに、いろいろと示唆をいただけ、ただ聞くだけでなく参加する講演であったと思います。とにかく良かったです。

全体研修（高吾支部）

・教育課程をじっくり学習していているなと感じました。予算計画や校外活動ブックも、ひとりだけのものではなく全体のものにしていき、活用されアイディアが増えどんどん進化していくとおもいます。事務職員の強みを活かし、情報を咀嚼し、資料をつくり情報を提供できるよう実践したいです。

・パネルディスカッションでは、校長先生の熱い想いが聞けてよかったです。

　これまでと違う考え方で、自分中心的な考えをやめ、何のために、誰のためにやっているのか意識したいと思います。

・「全国大会かと思った」と講師も言われていましたが、ここまでまとめ上げるには相当な労力が必要だったと思います。

・最後のパネルディスカッションは、時間がなくて残念なほどでした。

全体会（本部　調査研究部）

・ワールドカフェスタイルは、はじめてでしたが活発に意見が出ていて楽しかったです。県外の方のお話も聞けました。話し合いの時間が短く感じたので、もう少し少人数でも良かったかなと思いました。

・　　先生のご助言で、高知県は外の理解が課題だとおっしゃいましたが本当にそうだと思います。

・他県は実践する前に制度ができ、責任や給与の補償ができてきているので・・・。言葉にできていない、みえていない実践もたくさんあると思います。アピールが大事ですね！

・言語活動・・思考力を高めるとの子ども達への課題の一つを実際に自分たちが体験した思いでした。本当に良かったです。

記念講演（講師：四万十ドラマ　代表取締役　　氏）

・　　さんの、生産者をみんなに知ってもらいたい気持ちがよく伝わってきました。「考え方を売っている」ということ、マイナスにマイナスをかけてプラスにする考え方、エコの考え方。何より暮らしを楽しんでいるということが、いい発想を生むんだなと思います。

・人をしること、発送の転換を図ること、常にすすんでいくことそこに成功の鍵があるのだなと思いました。

・メモも取らずに聞き入っていました。人とのつながりが一番、「どうにかしてあの人とコンタクトを取りたい！」の思いを形にし、実現する行動力に感動しました。

・身近な地域起こし、実体験、人のつながり、あらためて無名の民衆の力に感動と触発を受けました。